

信州スカイパーク全体のランドスケープと一体となった競技場



アスレチックリングがつなぐ明快な平面構成の競技場



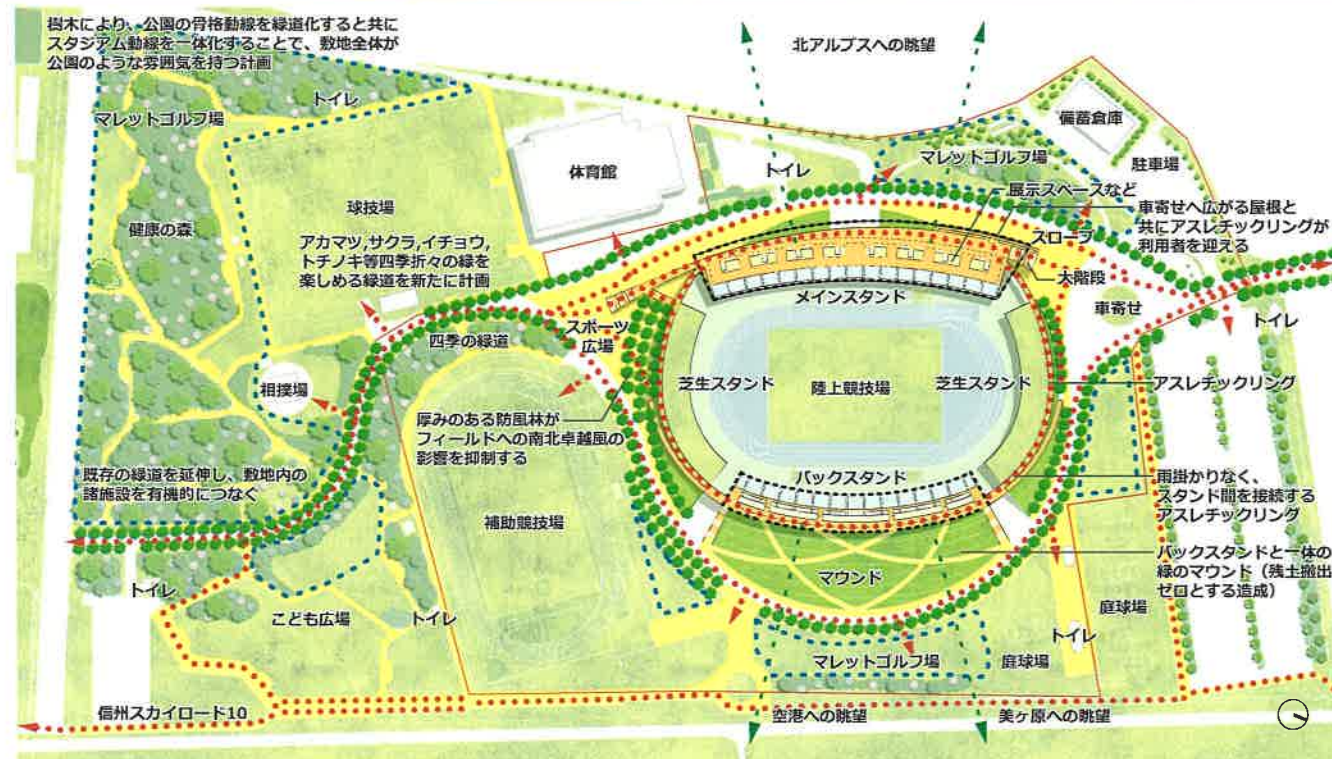
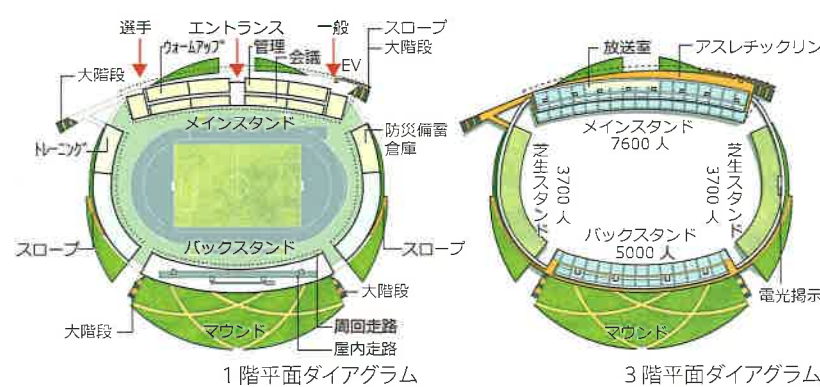
■公園をつなぐ緑の骨格となる『四季の緑道』

- ・蛇行しながら競技場を包む『四季の緑道』が、公園を南北に貫く骨格となり、園内の様々な活動を結びます。
- ・公園全体を有機的に結ぶ遊歩道のネットワークによって、豊かな緑の中に点在するスポーツやレクリエーション施設間の連携をより強めます。新たな歩行者ネットワークと結びながら、信州スカイロード10を再整備します。
- ・緑道に包まれたスポーツ広場やマウンドは、アスリートや観客のみならず、子供からお年寄りまですべての世代が日常的に楽しめるスポーツパークを実現します。
- ・アカマツ群落と落葉広葉樹が混在する現況の樹林帯を活かしながら、周辺の景観と調和したランドスケープを形成します。
- ・『四季の緑道』と競技場の動線を一体化し、市民が参加しやすい開かれた競技場とします。



■『アスレチックリング』による、だれもが使いやすい競技場

- ・メインスタンドからバックスタンドまで回遊できる『アスレチックリング』全体を、ユニバーサルデザインに配慮した市民のための空間とし、多様な観覧環境を設えます。
- ・明快な観客動線により、わかりやすく安全な避難計画とします。
- ・トレーニングルームや屋内走路は、市民への貸出も可能なように整備します。1階レベルでは、宿泊施設を整備し、年間を通して多様な活用が可能な競技場とします。



■競技場を囲む『アーチ壁』と光を受ける軽快な『膜屋根』

- 『アーチ壁』を介して自然環境とつながるアスレチックリング
- ・競技場を両側から包み込む『アーチ壁』によって、競技に集中できる環境を創り出し、競技者と観客の一体感を演出します。
- ・アーチ壁が額縁となって、北アルプスや美ヶ原、信州まつもと空港への、ここでしか得られない眺望をつくります。
- ・アーチの連なりによってアプローチする際の高揚感や祝祭性を感じさせる姿を形成します。
- 祝祭性やハレの場を象徴する、白く明るい軽やかな『膜屋根』
- ・光触媒コーティングによる耐汚染性や積雪に配慮した『膜屋根』は、明るい観覧環境と光に満ちたアスレチックリングを実現します。
- ・アーチ壁で包まれた、風雨を避けながら明るい半屋外のアスレチックリングには、ショップや展示施設も配置し、いつ来ても楽しめる競技場を目指します。

■省エネルギーと防災に配慮した安心・安全な施設計画

- ・運用パターン分析により、必要な部分だけ運用可能なシステム構成を行います。自然通風の活用により機械空調を最小限に抑え、雨水や井水の利用など、自然エネルギーを積極的に活用します。
- ・芝生スタンド下部に防災備蓄倉庫を設け、広域物資搬送拠点の機能を補強します。マンホールトイレや災害用汚水槽の設置、非常電源による重要機能維持など災害時の機能に配慮します。

